



学校図書館部会報 62

発行日：2019年12月22日

発行者：日本図書館協会 学校図書館部会（部会長：高橋恵美子）

連絡先：〒252-0318 神奈川県相模原市南区上鶴間本町 6-7-3-303

Tel. 042-743-1449 (Fax 共通) E-Mail: gaketobukai@jla.or.jp



INDEX

国立国会図書館の書誌データ「JAPAN/MARC」をご活用ください

田中 亮之介（国立国会図書館） 2

マンガを図書館に！～学校図書館を中心に～

高橋 恵美子（学校図書館部会長） 6

活字文化議員連盟・公共図書館プロジェクトによる『公共図書館-

「新しい公共」の実現をめざす-』を読んで

中村 崇（東京都立昭和高校図書館） 10

学校図書館年の国会決議、見送りに

高橋 恵美子（学校図書館部会長） 13

部会からのお知らせ

14

第 48 回夏季研報告集ができました！

報告集の主な内容

テーマ：「学校図書館から考える情報の信頼性

—インターネット・新聞・ニュース……時事的な情報とどう向き合うか—

講演情報の真偽を確かめるファクトチェック 楊井人文氏

報告 教育現場で記者をもっと「活用」しよう 鈴木賀津彦氏

実践報告 1 時事問題スピーチその後 遊佐幸枝氏

実践報告 2 新聞を活用した授業実践 野村香織氏

お問い合わせは、部会メールアドレスまで！

国立国会図書館の書誌データ「JAPAN/MARC」をご活用ください

田中 亮之介（国立国会図書館）

1. はじめに -JAPAN/MARC とは？-

国立国会図書館（NDL）は納本制度により国内出版物を広く収集し、それらの書誌情報を作成しています。それが全国書誌であり、JAPAN/MARC は全国書誌の機械可読版です。JAPAN/MARC は書誌データの標準フォーマットである MARC 形式で作成されており¹、様々な図書館システムで利用することができます。

本稿では学校図書館を対象として、JAPAN/MARC を中心に NDL が提供する書誌データの利用方法を紹介します。詳細な情報は、NDL ホームページ「全国書誌データ利用のためのクイックガイド²」をご覧ください。

2. NDL の書誌データの特長

NDL は年間 16 万件を超える全国書誌データを作成しており、累計すると国内の図書で約 500 万件、国内の逐次刊行物で約 20 万件に上る豊富な書誌データを蓄積しています。特に国や地方公共団体の出版物の書誌データが充実しているという特長があります。

データ品質の面でも、目録規則などの基準に基づいて標準的な書誌データを作成しています。これらの基準はホームページで公開しています³。また、NDC 等の分類を付与するとともに、個人名や件名などの典拠データとリンクしています。

3. 費用も申請も不要、自由に利用できます

2019 年 4 月から JAPAN/MARC を含む NDL の書誌データは、営利・非営利の目的を問わずどなたでも申請なしに無償で利用できるようになりました。書誌データとして図書館システムに取り込むことはもとより、ブックリストに加工するなど自由に活用していただけます。利用に際してのルールは、NDL ホームページの「書誌データの利用⁴」をご覧ください。

4. 対応する図書館システム

図書館システムの NDL 提供書誌データへの対応状況については、NDL ホームページに「国立国会図書館書誌データ対応システム一覧⁵」を掲載しています。2019 年 7 月時点で、33 社 44 システムが対応していますが、そのうち、一部の学校図書館システムを抜き出して⁶、以

¹ 現在は事実上の国際標準である MARC21 フォーマットを採用しています。データ項目など、フォーマットの詳細な説明は「JAPAN/MARC MARC21 マニュアル・フォーマット」のページ(<https://www.ndl.go.jp/jp/data/catstandards/jm/index.html>)に掲載しています。

² https://www.ndl.go.jp/jp/data/data_service/quickguide/index.html

³ 国立国会図書館. 書誌データ作成ツール =

<https://www.ndl.go.jp/jp/data/catstandards/index.html>

⁴ <https://www.ndl.go.jp/jp/use/metadata/index.html>

⁵ https://www.ndl.go.jp/jp/data/data_service/jnb/system_list.html

⁶ 「国立国会図書館書誌データ対応システム一覧」掲載システムのうち、「学校図書館シス

下に掲載します。

| 会社名 | 図書館システム名 | NDL の書誌データ提供形態 | | | |
|---------------------|---------------------|----------------|---------|--------|-------------|
| | | NDL サーチ (API) | | MARC | |
| | | 検索 API | OAI-PMH | MARC21 | J/M2009 など |
| (株)岡山情報処理センター | 探調 TOOL DX | ○ | | ○ | |
| キハラ(株) | ELISE-Egg (学校図書館向け) | ○ | | ○ | ○ |
| (株)九州 JBA | School PRO 図書 | ○ | | | ○ |
| 京セラコミュニケーションシステム(株) | EI-1 | ○ | ○ | ○ | |
| 第一電子(株) | 図書丸ねっと | ○ | | ○ | ○ |
| (株)ブレインテック | 情報館 ver. 9 | ○ | | ○ | ○(J-BISC形式) |
| (株)ユーリンク | ライブラリーワン | △* | △* | ○ | |
| (株)リブネット | TOP NET** | ○ | | ○ | |

*△は「今後実装予定あり」

**学校図書館向けシステム名は「TOP NET Lite」

5. JAPAN/MARC の入手方法

2019 年 4 月から NDL ホームページ内で JAPAN/MARC 週次版の提供を開始し、「JAPAN/MARC データ (毎週更新) ⁷」のページに掲載しています。ここで提供する JAPAN/MARC 週次版の概要は以下の通りです。

- ・単行・逐次刊行資料の書誌データである JAPAN/MARC (M/S) と、著者名および固有名件名の典拠データである JAPAN/MARC (A) を直近 1 年分掲載します。
- ・木曜日から翌水曜日までを収録期間として、その間に作成、更新、削除したデータを 1 つのファイルに収録します。
- ・ファイルは原則として、収録期間直後の金曜日に掲載します。

次に入手方法についてご紹介します。「JAPAN/MARC データ (毎週更新)」のページへアクセスするには、Google で「JAPAN/MARC データ毎週」と検索してください。このページ (図 1) では JAPAN/MARC (M/S) と JAPAN/MARC (A) に掲載リストが分かれています。入手したいファイルの提供日の欄をクリックして、zip 形式ファイルをダウンロードしてください。ダウンロードしたファイルを解凍すると、MARC 形式と MARC タグ形式の 2 種類のファイルが同梱されています⁸。MARC 形式は上述のように図書館システムへの取り込みに適した「機械可読形式」ですが、MARC タグ形式は MARC 形式のデータを 1 タグ/1 行となるよう変換したもので、視認による書誌データの確認やデータの加工に便利です (図 2)。

テム紹介) (『学校図書館』(826) 2019. 8) で紹介されたものを抽出しました。

⁷ https://www.ndl.go.jp/jp/data/data_service/jnb_product.html

⁸ ファイル名は MARC 形式が「jmo~.dat」、MARC タグ形式が「jmo~_confirmation.dat」となります (JAPAN/MARC (M/S) の場合)。JAPAN/MARC (A) では「jma」で始まります。



図 1 : JAPAN/MARC データ (毎週更新)



図 2 : MARC 形式と MARC タグ形式の例

6. その他の書誌データ提供サービス -ダウンロード・API-

NDL では JAPAN/MARC 以外にも様々な方式で書誌データを提供しています⁹。その中から、学校図書館での利用に便利なものを簡単にご紹介します。NDL の書誌データに対応した図書館システムは「4. 対応する図書館システム」をご覧ください。

①国立国会図書館書誌提供サービス (NDL-Bib) (図 3)

検索結果一覧画面および書誌詳細画面から、MARC 形式を含む様々な形式で書誌データのダウンロードが可能です。また NDL-Bib 内の「全国書誌提供サービス」では、全国書誌データを日付単位で一覧表示し、ダウンロードが可能です。ダウンロードした書誌データは、対応した図書館システムに取り込むことができます。

ただし、NDL-Bib は 2020 年 12 月をもってサービスを終了します。2021 年 1 月より、国立国会図書館サーチの書誌詳細画面から MARC 形式の書誌データを 1 件ずつダウンロードする機能を追加する予定です。詳しくは NDL-Bib の「お知らせ¹⁰」をご覧ください。

②国立国会図書館サーチ (NDL サーチ) (図 4)

外部提供インタフェース (API) を利用することで、書誌データを取得することができます。API なら自館の図書館システムから直接 NDL の書誌データを検索して、必要に応じて取り込めるため、ダウンロードの手間が省けて便利です。API を利用するには、業務用端末がインターネットに接続できる環境にあり、かつ図書館システムが NDL サーチの API に対応

⁹ 国立国会図書館. 書誌情報提供サービス = https://www.ndl.go.jp/jp/data/data_service/index.html

¹⁰ NDL-Bib トップ画面 (<https://ndl-bib.ndl.go.jp/>) 右上に「お知らせ」へのリンクがあります。

している必要があります。また、API で取り込める書誌データは MARC 形式ではなく DC-NDL(RDF)等の形式¹¹ですが、主要な書誌事項は網羅しています。

NDL 検索の API は仕様を公開しており¹²、マクロ等を作成して自由に利用することができます。例えば「国立国会図書館検索を使ったツール群の公開¹³」（同志社大学 原田隆史教授）では、ISBN あるいは検索によって NDL の書誌データを Excel に取り込むマクロツールを公開しています。予算やネットワーク環境等の制約で図書館システムを導入できない場合でも、こちらを利用すれば少ない労力で蔵書リストを作成することができます。

③国立国会図書館検索・申込オンラインサービス（国立国会図書館オンライン）（図 5）

検索結果一覧画面および書誌詳細画面から tsv などの形式でダウンロードすることができます。



図 3：NDL-Bib



図 4：NDL サーチ



図 5：国立国会図書館オンライン

7. おわりに

1981 年に頒布を開始した JAPAN/MARC は、情報技術の発展や社会の変化に合わせて、インターネットからのダウンロードなどの新たなサービスを展開してきました。2019 年 4 月からはどなたでも無償で自由に利用できるようになり、手間や費用の面でメリットが拡大しました。JAPAN/MARC をはじめとする NDL の書誌データが多くの学校図書館で活用され、業務の効率化や新たなサービスの展開を促す一助となれば幸いです。

¹¹ 国立国会図書館. 国立国会図書館サーチについて > メタデータ =

<https://iss.ndl.go.jp/information/metadata/>

¹² 国立国会図書館. 国立国会図書館サーチについて > API 仕様の概要 =

<https://iss.ndl.go.jp/information/api/riyou/>

¹³ <http://www.slis.doshisha.ac.jp/~ushi/ToolNDL/>

マンガを図書館に！ ～学校図書館を中心に～

第 21 回図書館総合展スピーカースクコーナー

11 月 12 日 (火) 13:00~13:45

高橋 恵美子(日本図書館協会学校図書館部会長)

はじめに

主催は YA カレント同好会 (株式会社 DB ジャパン)、同社と数回の打ち合わせを経て当日の発表となった。当日は、席は満席となり (40 席ぐらい?)、用意した資料もすべてなくなったとのこと。私自身もあとで出会った方に、自分の資料を手渡すような状況だった。以下、どういう話をしたかの概略を報告する。

1 マンガをめぐる状況

冒頭、副部会長中村氏より提供された図書館調査「あなたが普段読んでいる雑誌」(2001 年から 2017 年全校調査のデータ) を使用し、マンガが、雑誌中心からコミックス中心へ、さらに最近では電子化へと移行していることを述べた。次に「今まで読んだ本の中で心に残っているもの、面白かったもの、好きなもの」(2001 年から 2017 年全校調査のデータ) をとりあげ、あがっている作品 (マンガも入っている) の中で、特にハリー・ポッターシリーズと ONE PIECE について、発行部数の比較を行った。

| | 2003.7 | 2019.10 日本 | 2019.10 世界 |
|------------------|----------|--------------|--------------|
| ハリー・ポッター シリーズ | 1,100 万部 | 2.360 万部 | 5 億部 |
| ONE PIECE | 6,600 万部 | 3 億 6.000 万部 | 4 億 5,000 万部 |

マンガの海外進出に関しては、「日本でトップクラスの人気マンガは海外でもそうになっていると考えてよいと思います。」(『創』2019. 5・6 p.37)、「海外マーケットから年間に得ている著作権の売り上げは、少なくとも 20 億円を超える」「このうち 3 分の 2 以上が、アジア諸国からの収益であり、残りはアメリカとヨーロッパ」(『コミック学のみかた AERA Mook』朝日新聞社 1997 p.129) の記述を紹介した。

また、最近の TV ドラマ・映画等の原作に、マンガが多く使用されていることをあげた。例示として、TV ドラマでは、「きのう何食べた?」(2019)「義母と娘のブルース」(2018)「この世界の片隅に」(2018) 「コウノドリ」(2015、2018)「重版出来!」(2016)、映画では「キングダム」(2019)「ちはやふる」(2016、2018)「暗殺教室」(2015、2016)などをあげた。

2 学校図書館のマンガ導入

まず最初に、学校図書館にマンガが入ることになったきっかけとして、『はだしのゲン』の存在が大きいこと、高校の場合は『マンガ日本経済入門』『アドルフに告ぐ』(手塚治虫)があったことをあげた。1987 年に『はだしのゲン』全 10 巻 (汐文社) 完結の翌年、1988 年に全国学校図書館協議会図書選定基準にマンガの選定基準が加わっている。

全国的には、神奈川県は、神奈川県の県立高校図書館に多くマンガが入っていると考えられる。神奈川県の場合どのようにとりくんできたかという、1988 年に行った神奈川県高等学校教職員組合の教育研究集会分科会の報告号である「教研ニュース No.47 漫画のヨミ方」(1989.3) の発行、県教育委員会主催県立学校研修講座分科会「マンガを考える」などがある。この時期、学校司書は図書館を活用した学習を提唱する教研活动にもとりくんでおり、マンガの導入だけにとりくんでいたわけではない。また、学校図書館問題研究会全国大会では、1991、1994、2006 年に、神奈川支部が分科会運営を担当、2003 年には、高橋がアメリカのニューメキシコ州図書館大会分科会で「学校図書館とマンガ」の報告を行った。2005 年、高橋による「学校図書館とマンガ どう考えるか、どう扱うか」(法政大学資格課程年報 2004 年度 Vol.2 法政大学キャリアデザイン学部)、2009 年、笠川昭治氏による「学校図書館とマンガ 図書館が苦手なマンガと上手につきあう方法」(現代の図書館 Vol.47 No.4 日本図書館協会)がある。

3 アメリカの学校図書館と日本のマンガ

アメリカの学校図書館で、日本のマンガが高く評価されている実態がある。2009 年発行の『シカゴ・ボストン・ニューヨークに見る探究学習を支える学校図書館』(全国学校図書館協議会)には、「どの学校にもマンガがあるのです。多くの学校が学校図書館の入り口付近など見つけやすいところに置いてありました。<略>「comic」や「animation」ではなく、「MANGA」と表示してあるところが多くありました。」(p.52)との文があり、図書館にある「MANGA」の写真(p.53 p.60)、図書館にある「デスノート」のポスターの写真(p.115)が掲載されている。

アメリカ図書館協会(ALA)の出版物にも日本のマンガが出てくる。『GRAPHIC NOVELS IN YOUR SCHOOL LIBRARY』(2012)では PLUTO (プルートウ)(浦沢直樹)が入っている。この本の第 4 部では、GRAPHIC NOVELS を使用した授業プランが紹介されている。『THE READER'S ADVISORY GUIDE TO GRAPHIC NOVELS SECOND EDITION』(2017)では、はだしのゲン(中沢啓治)、放浪息子(志村貴子)、千年の翼、百年の夢(谷口ジロー)、劇画ヒットラー(水木しげる)、光とともに……(戸部けいこ)、ドライ・ラマ 14 世(さいわい徹)、ブッダ(手塚治虫)、マンガでわかる統計学(高橋信)が入っている。

さらにアメリカ図書館協会(ALA)、YALSA (Young Adult Library Services Association)の活動として、Great Graphic Novels for Teens Top Ten があり、日本のマンガが 1 作品から 3 作品選ばれている。2007 年から 2019 年の Top Ten に入った日本のマンガは、以下の通りである。

- 2007 DEATHNOTE (デスノート) (小畑健 大場つぐみ)
- 2008 エマ (森薫)
- 2009 砂時計 (芦原ひなこ) リアル (井上雄彦) うずまき (伊藤潤二)
- 2010 海獣の子供 (五十嵐大介) PLUTO (プルートウ) (浦沢直樹)
大奥 (よしながふみ)
- 2011 土星マンション (岩岡ヒサエ)
- 2012 乙嫁語り (森薫) 放浪息子 (志村貴子)
- 2013 星守る犬 (村上たかし)

- 2014 ストロボ・エッジ (咲坂伊緒)
- 2015 おおかみこどもの雨と雪 (優 細田守)
- 2016 聲の形 (大今良時)
- 2017 orange (高野莓)
- 2018 弟の夫 (田亀源五郎)
- 2019 弟の夫 (田亀源五郎) 銀の匙 (荒川弘)

なお、アメリカというわけではないが、国際バカロレア (IB) 認定校の学校図書館に関する情報をここにあげる。国際バカロレア教育プログラムは、探究型学習やプロジェクト型学習が重視され、学校図書館の役割が大変大きい。『学校図書館』2019年6月号は、「国際バカロレアを支える学校図書館」を特集しており、その中に「アカデミックなりソースだけではなく、生徒が楽しんで読む小説、漫画、グラフィックノベルなども置く。IB の授業ではマンガも分析対象のテキストであり、扱うことが推奨されている。」(p.54) との一文がある。

4 図書館資料としてのマンガ

2017年10月、日本図書館協会全国図書館大会東京大会で、学校図書館部会は第5分科会「図書館資料としてのマンガ」を担当した。参加者は107名、内容は、笠川昭治「学校図書館とマンガ」、新出「白河市立図書館におけるマンガ資料の蔵書構築」、山内康裕「マンガで多様な世界を知るー日本財団「これも学習マンガだ！～世界発見プロジェクト～」の報告三本と研究討議である。

新出氏の報告では、公共図書館とマンガについて、「総じてマンガ資料は、ほかの資料群に比べて収集率が低いという現状」があること、「公立図書館での所蔵の多いマンガは、<略>エッセイマンガである。」とのことだった。また、マンガ資料の特性として、巻数が多い、資料としての非堅牢性、亡失が多い、品切れが多いことをあげた。そして、公共図書館が収集・提供に消極的な理由として、「同じ書籍メディアでありながら、マンガ資料にだけ特異な制限が科せられている」との現状があること、さらに「図書館員の(保守的な)意識が<略>最大の要因ではないかとも推測される」と述べている。

日本財団の「これも学習マンガだ！」のとりくみは、2015年に「これも学習マンガだ！100作品」を発表したことに始まる。2016、2017年に、それぞれ50作品が加わり、現在200作品である。この「これも学習マンガだ！」というネーミングとマンガ作品リストに「小学生からOK」マークがついていることは、学校図書館及び図書館を意識していることと思われる。このとりくみについては、なぜ、アメリカのように学校図書館、あるいは図書館からの発信ができなかったのか、と思わざるを得ない。それはひよっとすると、日本における学校司書、司書の専門職の位置づけの弱さではないかと感じる。

5 まとめ

子どもの読書の意義を考えると、読むことは、学びの基礎であって、読むこと・学ぶことの核(コア)に楽しみがあると考えている。楽しみがあることで、読む世界、学びの世界が広がる。そして、読むことは、必ずしも本とは限らない。マンガ・映画・アニメ・ゲームなどの楽しさが、読むこと、学ぶことにつながる。その例示として、二冊の本をあげ

た。

一冊は、『父と息子のフィルム・クラブ』（デヴィッド・ギルモア 高見浩訳 新潮社 2012）、カナダのノンフィクションである。ある日突然 16 歳の息子が、高校に行きたくないと言い出した。映画評論家の父親は考えたあげく、息子に「わかった、学校に行かなくていい。代わりに週に三本、映画を一緒に見てほしい。見る映画は私が選ぶ。それが、これからお前が受ける唯一の教育だ。」と言う。いろいろな読み方ができる本だが、息子は父親と映画を見続けることで、結果、学びの世界に戻る決意をする。

もう一冊は、『愛と欲望の三国志』（箱崎みどり 講談社現代新書 2019）。この本は、日本における三国志の受容の歴史を書いた本である。この本の著者が、三国志と出合ったのは、小学生の時、NHK『人形劇三国志』を見たことである。著者の年齢を考えると、この時の放送は再放送だったと思われる。

マンガ導入の実際には、1991 年の学図研全国大会分科会（神奈川支部が運営）の資料を抜粋した。

Start マンガなんてくだらない！という家庭に育った私……
だからマンガにもくわしくなく、また、何やらうしろめたい思いもつき
まとい…

マンガ入門 しかし、生徒は言う。
「マンガ入れてよ。あッおもしろいの貸したげるよ!!」
はじめは強いて読んでたけど…でも!! でも、おもしろいじゃないの。
マンガたって 奥が深い。ホントにピンクリ。

決心! しかし・しかし・But・良いことばかりでもないのも確か?

(『がくと』VOL.7 1991 p.33)

マンガを段階的に入れるために、2017 年の日本図書館協会全国図書館大会東京大会第 5 分科会「図書館資料としてのマンガ」における笠川昭治氏の報告を引用した。

- ① まずは定番マンガから
- ② 愛蔵版や文庫本で読めるマンガ
- ③ 授業で活用できるマンガ
- ④ 社会的な関心を広げてくれるマンガ
- ⑤ 学校生活を描いたマンガ
- ⑥ そして、リクエストされたすべてのマンガへ

笠川氏は、「①や②のマンガで終わってはいけない。やはり③以降のマンガを幅広く入れていきたいものだ。」と書いている。

(『第 103 回全国図書館大会東京大会記録第 103 回全国図書館大会東京大会記録』p.68-69)

最後に、今入れるマンガとして『はたらく細胞』（清水茜 講談社）シリーズをあげて、終了した。

活字文化議員連盟・公共図書館プロジェクトによる 『公共図書館-「新しい公共」の実現をめざす-』を読んで

中村 崇（東京都立昭和高校図書館）

2019年6月24日、活字文化議員連盟・公共図書館プロジェクト（座長・肥田美代子氏）は、同議員連盟細田博之会長（衆議院議員）・笠浩史事務局長（同）に、「公共図書館の将来—『新しい公共』の実現をめざす—」（答申）を提出した。また、8月20日、（公財）文字・活字文化推進機構からは、同答申の内容をまとめたパンフレット（全20ページ）も発行された。

答申は3章から構成されており、その概要を簡潔に紹介したい。

○第1章 公共図書館改革への道

ここでは、同議員連盟が、2010年から、同議員連盟が書誌データの一元化や国立国会図書館の書誌データの無償利用化に取り組んできたことが紹介され、また、2010年代に公共図書館の運営や管理を巡って全国各地でトラブルが相次いだことからこのプロジェクトが設置されたなどの経過が報告されている。

○第2章 公共図書館の現状と改革の課題

第2章は、「1.全国書誌情報と国立国会図書館の責務」「2.危機に立つ地域書店」「3.図書館職員の劣悪な労働条件」「4.公共図書館に馴染まない指定管理者制度」「5.障害者の読書活動への参画」の5節で構成されている。この項目名をみるだけで、現状をよく認識した意欲的な文書であることが一目瞭然である。

「2.危機に立つ地域書店」では、図書館への図書納入が、入札制度によって値引きを強制されたり、指定管理者制度や業務委託化によって地域書店が閉め出されたりしていることを問題としている。

「3.図書館員の劣悪な労働条件」では、他の分野と比べてとりわけ図書館において顕著に非正規化が進行していること、業務委託や指定管理では請負価格の値引き競争が人件費を抑圧していること、問題が雇用契約の「秘密保持条項」によって表面化されないことなどを指摘している。

さらに「4.公共図書館に馴染まない指定管理者制度」では、民間への丸投げで、図書館業務の知識・能力・ノウハウを身につけた人材の育成やその継承が困難となり、専門的知識を持った人材が地域に根付かないこと、指定管理導入当初は利用が伸びても数年後には大幅に減少する傾向にあること、長期的視点から文化の拠点としての図書館づくりという姿勢に欠けること、行政からノウハウが失われた結果業者を評価する能力もなくなり、むしろ経費の高騰を招くという事態を生じていることなど、現場で議論・指摘されてきた委託の問題点が概ね網羅されている。これらは、個々の業者の問題ではなく、指定管理者制度そのものが内包する体質であり、公共図書館への指定管理者制度の導入はそもそも馴染まないと明言している。筆者としては、加えて、委託は必然的に「劣悪な労働条件」となり、短期間での離職が生じ、専門性を持った人材が「地域に根付かない」だけでなく、そもそも専門性を身につけること自体難しいことも言及すべきだったろうとは思いますが、全体としてはまさにその通りと拍手を送りたい。

「5.障害者の読書活動への参画」では、マラケシュ条約や読書バリアフリー法成立などの社会の変化を指摘し、図書館における対応も必要と提起している。

○第 3 章 公共図書館の将来—5 つの提言—

第 3 章の 5 つの提言は、「1.首長の指導力と住民参画による図書館運営」「2.MARC 選択の多様性確保と NDC の付与」「3.図書納入は地域書店を優先」「4.司書の社会的地位の確立」「5.新しい評価指標づくり」となっている。

「1.首長の指導力と住民参画による図書館運営」では、様々な課題の解決のために、首長のリーダーシップや図書館協議会の活性化を提言している。後者には異論はないが、首長のリーダーシップについてはどうだろうか。現実には、「強力なリーダーシップ」をアピールしている首長にこそ、図書館を激しく破壊する傾向はないだろうか？ むしろ、制度的に、図書館を政治からは遠ざけることこそ必要なのではないかと思う。筆者には教育委員会制度の復活と強化の方が現実的なように思われる。同節では、未設置市町村の問題にもきちんと言及しており、ここも評価できるところだ。

「2.MARC 選択の多様性確保と NDC の付与」では、全国書誌情報を補うオプションとして多様な民間 MARC があることを前提に、「指定管理者・書誌データ・図書納入業者」の「3点セット入札」をやめ、公正な競争と利用環境の適正化の実現を提言している。自治体によって書誌データの単価を大幅に変える（要するに、専門家がいらない自治体は”ぼったくり”される）ような大手業者もあるようであり、至極当然の提言である。学校図書館に関しては、簡易データでも十分対応できるという認識を普及し、MARC 使用料の削減に努めることを提言している。たしかに、筆者自身も、国会図書館の書誌情報にはお世話になることも多く、議員連盟のこの間の地道な取り組みには大変感謝しているところである。

「3.図書納入は地域書店を優先」では、2 章での問題指摘への解決策として、地域書店からの購入を優先し、装備作業は地域の福祉施設と連携することなど、税金の域内循環・新たな地域循環型の経済効果を生み出す図書館政策を提言している。地方の経済活性化には、図書館に限らず公共部門全般で必要となる考え方で、納得できる提言である。

「4.司書の社会的地位の確立」では、「官製貧困から解放することが喫緊の課題」と述べ、雇い止めの見直しも提言している。パンフレットの注釈解説によれば、1999 年から 2015 年の 16 年間で、司書の非正規率は 23.2%から 63.0%に跳ね上がっているそうである（文科省「社会教育費調査」による）。この調査には指定管理図書館の非正規率は反映されていないので、実際にはもっと高い。総務省による「労働力調査」では、就業者全体の同じ期間の非正規雇用割合は 24.9%→37.5%であることも紹介されている。このパンフを読むと、まさに図書館は狙い撃ちされていることがよくわかる。司書の雇用問題を議論すると、「実践が重要だ」という意見を聞くことがあるが、この数字は、それは間違った考えだということを証明しているのではないだろうか。司書の働きが他の業種と比べてとりわけ悪かったから、非正規化したわけではない。正規雇用を実現できるか非正規雇用化するかは、現場の実践がどうこうということより、むしろ政治問題であったり差別の問題であったり力関係の問題であったりするのではない（もちろん前提として実践・実績は大事なのであるが）。この答申の提言では、「継続して安心して働くことのできる労働環境を整えるとともに、指定管理や業務委託による価格競争で図書館職員の待遇を劣化させない配慮が必要」と述べていて、全くその通りと思う。ただし残念な

がら具体策は記されていない。2 章の部分で、会計年度任用職員制度の実施に関連して雇用条件が悪化しないように「立法府による不断のチェック機能が期待されている」ともある。関係議員諸氏の取り組みを期待したい。また、市民の側も、この答申を活用し、各自治体に普及していく取り組みが必要だろう。

最後の「5.新しい評価指標づくり」では、貸出率だけでなく、デジタル化時代への対応、教養や調査研究に必要な資料の整備、地域住民の抱える現代的課題に寄り添う適応力、専門職員の雇用形態や配置状況と育成計画、利用のバリアフリー度と障害者雇用の状況、図書館長の運営ビジョンの構築力とその達成度、自治体における図書館政策の優先順位、持続可能な社会づくりへの貢献度、住民に開かれた協働による運営なども含めて評価指標をつくることを提言している。

ごく一部に不十分あるいは疑問を感じる部分もないではないが、全体としては現状と課題を正しく把握し、望ましい改善の方向性を示していると高く評価できる。書店や図書館を、地域の文化を支えるものにとらえ、司書の雇用の改善を提言するなど、共感できることが多い。このような報告をまとめてくれたことについて、関係者に深く感謝したい。同時に、提言された内容、特に司書の待遇改善（正規化）については、何とか、実効性ある具体策を政策化して頂きたいと切に願う。

このパンフレットは、文字・活字文化推進機構のウェブサイトからダウンロードすることもできる。ぜひ多くの方に目を通して頂きたいし、研修の場での活用など普及も期待したい。

※上記のパンフレットが掲載されている文字・活字文化推進機構のウェブサイト
→<http://www.mojikatsuji.or.jp/policy/2019/06/27/3376/>

学校図書館年の国会決議、見送りに

高橋 恵美子

2019年5月21日、学校図書館議員連盟総会（参議院議員会館）において、「学校図書館年に関する決議」（第1次草案）が決定された。その後、各党各会派の党内調整が行われ、2019年通常国会に提案するべく準備が進められていたが、会期末になって一部政党から修正要望が出され、秋の臨時国会に先送りとなった。この件は、公益財団法人文字・活字文化推進機構より、7月11日付文書で協会に連絡があった。

12月13日、協会に文字・活字文化推進機構より、国会決議の国会提出が見送られたとの連絡があった。文字・活字文化推進機構の12月13日付文書によれば、臨時国会に向けて決議文の最終案をまとめたが、「日本維新の会」から決議案提出に反対することが伝えられ、提出の道は絶たれたとのことである。反対理由は、「学校司書の配置・促進は公務員の増加となる」「学校図書館は不要である」というものだった。

文字・活字文化推進機構は、決議文提出にあたって全国の関連団体38団体（2019年2月現在）の賛同を得ており、国会決議見送りについての説明責任があるとして、「日本維新の会」に反対の理由を問う文書（12月9日付）を提出している。12月12日付の「日本維新の会」からの解答では、「やみくもに公務員の数を増やすことにつながりかねない」「図書館の司書は近い将来、AI（人工知能）にとって変わられる業務と予想されます」「人員を増強すれば、教育の「質」が向上するというものではありません」などの記述がある。

来年の夏季研究集会について

準備が遅れていて、ご迷惑をおかけしています。当面、2020年8月5日（水）6日（木）の日程で、石川県金沢市での開催を予定しています。会場がなかなか決まらなかった関係で、講演者、報告者の人選についても未定の状況です。

日本図書館協会へのご寄附をお願いします

日本図書館協会は、公益目的事業にかなう事業を円滑に行っていくため、広く市民の皆様からのご寄附を受け付けています。

現在募集中の寄附には、一般寄附金と指定寄附金、さらには本で寄付するチャリボンがあります。一般寄附金は、寄附の用途を指定しない寄附金です。指定寄附金は、寄附の用途を指定する寄附金です。指定寄附には、図書館災害対策のため、東日本大震災復興支援のため、また特定の事業（活動部会・委員会活動など）を指定して寄附することができます。本で寄付するチャリボンは、ISBNのない本、百科事典、コンビニコミックなどは対象になっていません。

詳しくは以下のサイトをご覧ください。

<http://www.jla.or.jp/jla/tabid/457/Default.aspx>

部会からのお知らせ

NEW

◎2019 年度夏季研究集会報告集できました

- ・2019 年度夏季研究集会は「学校図書館から考える情報の信頼性」をテーマに行われました。このたびその報告集が完成しました。
- ・参加者とすでに報告集購入のお申込みを頂いた方には、年内に発送予定です。年明けになっても届かない場合は、巻頭標記の部会連絡先にご連絡下さい。
- ・報告集の通販も承ります。送料込で1部 1000 円です。通販ご希望の方は、巻頭標記の部会連絡先にお問い合わせ下さい。

◎学図部会メーリングリストへのご参加のお誘い

部会員相互の連絡や、皆様からの意見を部会運営に生かすために、メーリングリストを開設しております。部会員であればどなたでもご参加頂けます。参加ご希望の方は、本紙巻頭の部会連絡先または部会アドレス (gakutobukai@jla.or.jp) 宛にご連絡下さい。参加にあたっては、(1) 氏名 (本名) (2) 日本図書館協会の会員番号 (図書館雑誌の宛名ラベルに記載されています) (3) 所属 (ない方は不要) (4) メールアドレス をお知らせ下さい。※メーリングリストへの参加は部会員に限らせていただいております。協会を退会された方や部会を移動された方など、部会員でなくなった場合には、ご連絡下さい。部会員でないことが確認された場合、配信を終了させていただきます。

◎異動・変更等について

人事異動、転居、改姓等された方は協会事務局へご一報下さい。ただし、メーリングリストに登録したメールアドレスの変更は、部会代表アドレス宛にお知らせ下さい。メーリングリスト参加者が協会を退会や所属部会を変更された場合、協会事務局に加えて、部会にもお知らせ下さい。

◎各地の情報・各地の実践をお寄せ下さい

部会報に載せたい実践の情報や学校司書の配置情報、各種研究会の参加記など、皆様からの情報をお寄せ下さい。その際は部会連絡先または各幹事までご連絡下さい。ご相談もお受けいたします。

◎研究会・集会・イベント等の開催情報掲載

各団体等が開催する図書館関係の研究会・集会等の開催情報を掲載いたします。開催日時やテーマ等要点をまとめて掲載いたします。掲載ご希望等お問い合わせは、部会連絡先にご連絡下さい。なお、次号の発行は2020年3月頃、次々号は2020年6~7月頃を予定しています。

◎ホームページをご覧ください

学校図書館部会ではホームページを開設しています。日本図書館協会のホームページから開くことができます。最近の部会報や幹事会の記録などはここに掲載しています。どうぞご参照下さい。
→ <http://www.jla.or.jp/school/index.html>

◎幹事会はどなたでもご参加いただけます/皆様からのご意見・ご提案をお待ちしています

学校図書館部会は役員が幹事会を開いて様々なことを話し合い、運営しています。幹事会には、学校図書館部会員であればどなたでもご参加頂けます。開催日時・場所等は部会連絡先にお問い合わせ下さい。また、遠方の会員の方など、会議への直接の参加が難しい方は、ご意見・ご要望などをお寄せ下さい。部会報への投稿もお待ちしています。役員一同、部会員の意見を反映した部会運営に努めたいと思っています。よろしく願いたします。